

伊那谷・経済動向

中小企業景気レポート



アルプス中央信用金庫

<http://www.alupuscho-shinkin.jp/>

ALSHIN
BANK

主要指標	今期	前年同期	前年同期比	
有効求人倍率 (伊那公共職業案内所管内)	2019/2 1.72 倍	2018/2 1.75 倍	前年同月比 -0.03 倍	
自動車新規登録台数 (松本自動車検査 登録事務所管内)	新車	9,155 台	9,321 台	-1.78 %
	中古車	2,129 台	2,035 台	4.62 %
	合計	11,284 台	11,356 台	-0.63 %
住宅新設着工数 (戸建、共同住宅を含む) (伊那市、駒ヶ根市、上伊那郡)	12~2月 251 件	12~2月 214 件	17.29 %	
駒ヶ岳ロープウェイ乗車客数	10,672 人	9,254 人	15.32 %	
中央道利用台数 (伊北インター分)	入	269,410 台	270,970 台	-0.58 %
	出	255,609 台	256,285 台	-0.26 %
中央道利用台数 (伊那インター分)	入	300,494 台	310,602 台	-3.25 %
	出	305,097 台	316,033 台	-3.46 %
中央道利用台数 (小黒川スマートインター分)	入	97,666 台	76,233 台	28.12 %
	出	100,652 台	78,669 台	27.94 %
中央道利用台数 (駒ヶ根インター分)	入	238,182 台	271,169 台	-12.16 %
	出	237,814 台	265,860 台	-10.55 %
中央道利用台数 (駒ヶ岳スマートインター分)	入	49,903 台	7,015 台	-
	出	45,147 台	7,136 台	-
中央道利用台数 (松川インター分)	入	210,002 台	213,466 台	-1.62 %
	出	198,200 台	201,687 台	-1.73 %

前期10-12月 今期1-3月 来期4-6月 7-9月の四半期毎集計

※このレポートは、当金庫のお取引先202社に対し、2019年1月～3月期の景気の現状と 2019年4月～6月期の見通しを調査したものです。

地区内の景況観

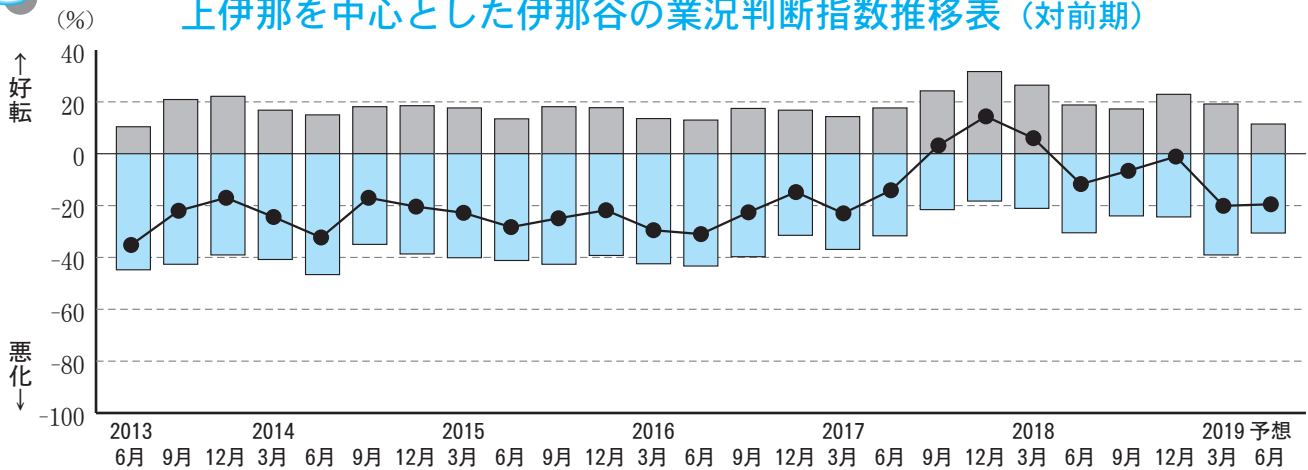
◇**今期の業況**：今期の上伊那地区内の業況を総合的に見ると、良かったとする企業は20.1%（前期24.0%）、悪かったとする企業は40.2%（前期25.1%）、DIは▲20.1（前期▲1.1）と19.0ポイントの下降で、業況感は大きく落ち込んだ。

業種別のDIを見ると、**製造業▲22.9**（前期12.9）、**建設業12.2**（前期0.0）、**卸売業0.0**（前期20.0）、**小売業▲33.3**（前期▲29.0）、**サービス業▲56.0**（前期▲19.2）、**不動産業▲16.7**（前期16.7）で、建設業のみがプラス領域、製造業・小売業・サービス業・不動産業はマイナス領域となっている。前期と比較して、**建設業が12.2ポイント上昇**で上向いたが、その他の業種は前期を下回っている。**卸売業は20.0ポイント下げ±0.0**、**製造業は35.8ポイント**、**不動産業は33.4ポイント下げ**水面下に落ち込み、**小売業は4.3ポイント**、**サービス業は36.8ポイント下げ**悪化幅が拡大した。

◇**来期の見通し**：来期の業況を総合的に見ると、良いと予想する企業は12.0%（今期20.1%）、悪いと予想する企業は31.5%（今期40.2%）、DIは▲19.5（今期▲20.1）で、今期とほぼ同様の悪化幅を予想している。

業種別のDIを見ると、**製造業▲24.3**、**建設業▲9.8**、**卸売業22.2**、**小売業▲36.4**、**サービス業▲20.0**、**不動産業0.0**となっており、卸売業がプラス領域、不動産業が±0.0で、それ以外の業種はマイナス領域を予想している。今期と比較して、**サービス業は36.0ポイント上昇**で水面下ながら改善、**卸売業は22.2ポイント上昇**で回復に向かい、**不動産業は16.7ポイント上昇**で好感感が出る見通しとなっている。一方で、**建設業は22.0ポイント下げ**悪化に転じ、**製造業と小売業はそれぞれ1.4ポイント、3.1ポイント下げ**低迷する見通しとなっている。

上伊那を中心とした伊那谷の業況判断指数推移表（対前期）



※棒グラフは業況判断指数、折れ線グラフはDIを表しています。

※DIとは、増加（好転）企業割合から減少（悪化）企業割合を差し引いた数値で、どちらの力が強いかで業況を判断しています。

なお、「仕入価格」については下降割合から上昇割合を、「販売価格」については上昇割合から下降割合をそれぞれ差し引いた数値で判断しています。

業種別天気図

業種	時期	2018年	2018年	2019年	2019年
		7～9月期	10～12月期	1～3月期	4～6月期予想
総合		☁	☁	☁	☁
製造業		☁	☁	☁	☁
建設業		☁	☁	☁	☁
卸売業		☁	☁	☁	☁
小売業		☔	☁	☔	☔
サービス業		☁	☁	☔	☁
不動産業		☀	☁	☁	☁



製 造 業 (調査先企業76社 うち回答企業70社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**22.8%**(前期**31.4%**)、悪かったとする企業は**45.7%**(前期**18.5%**)でDIは**▲22.9**(前期**12.9**)と**35.8**ポイントの大幅下降、2017年9月期からプラス領域を継続していたが、1年半ぶりに水面下に落ち込んだ。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲30.0**(前期**18.6**)、受注残のDIは**▲20.0**(前期**8.6**)とそれぞれ**48.6**ポイント、**28.6**ポイント下降で水面下に落ち込んだ。収益のDIは**▲42.9**(前期**0.0**)と大きく**42.9**ポイント下降で厳しさを強めた。価格の面では原材料価格のDIは**▲30.0**(前期**▲40.0**)と上昇幅が縮小した。販売価格のDIは**▲8.6**(前期**2.9**)と、前期の小幅ながらの上昇から今期は下降へと転じた。資金繰りのDIは**▲12.9**(前期**1.4**)と厳しい状況に転じた。借入れをした企業は**28.6%**(前期**33.3%**)、設備投資の実施をした企業は**38.6%**(前期**54.9%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲31.4**(前年同期**32.4**)、収益はDI**▲40.0**(前年同期**19.1**)とそれぞれ**63.8**ポイント、**59.1**ポイント下降し水面下に大きく落ち込んだ。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DIは**▲24.3**(今期**▲22.9**)と**1.4**ポイント下降で低迷が続く予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額はDI**▲18.6**(今期**▲30.0**)、受注残はDI**▲8.6**(今期**▲20.0**)、収益はDI**▲22.9**(今期**▲42.9**)とそれぞれ改善する見通しである。原材料価格のDIは**▲22.9**(今期**▲30.0**)と価格の上昇を予想する企業は今期より減少、販売価格のDIは**1.4**(今期**▲8.6**)と僅かに上昇へ転じる見通しである。資金繰りのDIは**▲8.6**(今期**▲12.9**)と改善の見通しである。借入れを予定している企業は**18.8%**(今期実施**28.6%**)、設備投資の実施を予定している企業は**38.5%**(今期実施**38.6%**)となっている。

◆DI指数推移

	2018年				2019年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	23.5	4.2	2.9	12.9	▲22.9	▲24.3
売 上 額	5.9	▲5.6	▲5.7	18.6	▲30.0	▲18.6
受 注 残	10.3	▲5.6	▲12.9	8.6	▲20.0	▲8.6
収 益	2.9	▲5.6	▲18.6	0.0	▲42.9	▲22.9
販 売 価 格	2.9	▲1.4	5.7	2.9	▲8.6	1.4
原 材 料 価 格	▲44.1	▲47.2	▲47.1	▲40.0	▲30.0	▲22.9
原 材 料 在 庫	5.9	12.5	14.3	10.0	10.0	11.4
資 金 繰 り	4.4	0.0	▲1.4	1.4	▲12.9	▲8.6

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	した	36.8	30.0	33.3	33.3	28.6	18.8
	しない	63.2	70.0	66.7	66.7	71.4	81.2
借 入 難 易 度	容 易	11.8	9.7	8.6	17.4	11.4	—
	不 変	67.6	68.1	78.6	66.7	70.0	—
	難	8.8	8.3	7.1	7.2	10.0	—
	該当なし	11.8	13.9	5.7	8.7	8.6	—

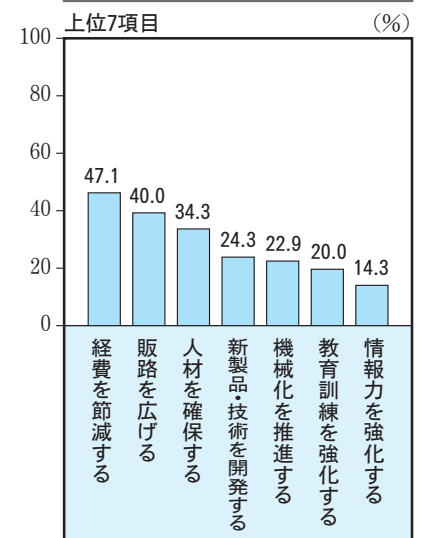
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	した	52.3	56.5	52.2	54.9	38.6	38.5
	しない	47.7	43.5	47.8	45.1	61.4	61.5
状 況	過 剰	2.9	6.9	1.4	2.9	2.9	4.3
	適 正	69.2	61.2	68.6	70.0	81.4	78.3
	不 足	27.9	31.9	30.0	27.1	15.7	17.4
DI	▲25.0	▲25.0	▲28.6	▲24.2	▲12.8	▲13.1	

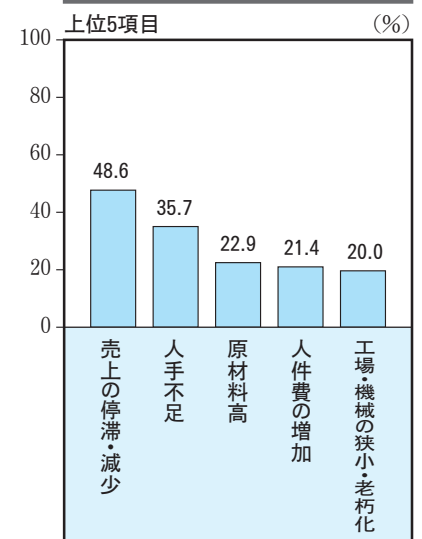
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	30.9	13.9	17.1	30.0	18.6	8.7
	不 変	58.8	56.9	57.2	54.3	50.0	58.0
	減 少	10.3	29.2	25.7	15.7	31.4	33.3
人 手	過 剰	1.5	4.2	7.1	7.1	7.1	8.7
	適 正	47.0	63.4	52.9	44.3	52.9	60.9
	不 足	51.5	32.4	40.0	48.6	40.0	30.4

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



景況調査レポート

建設業 (調査先企業43社 うち回答企業41社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**29.3%**(前期**20.0%**)、悪かったとする企業は**17.1%**(前期**20.0%**)で、DIは**12.2**(前期**0.0**)と**12.2**ポイント上昇で上向いた。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**のDIは**12.2**(前期**17.5**)と**5.3**ポイント下降し増加幅が縮小した。**受注残**のDIは**19.5**(前期**5.0**)と**14.5**ポイント上昇し回復基調である。**施工高**のDIは**14.6**(前期**15.0**)と前期とほぼ同様の増加幅を維持している。**収益**のDIは**2.4**(前期**▲15.0**)と**17.4**ポイント改善した。**価格面**では**請負価格**が**DI▲7.3**(前期**▲2.5**)と上昇に転じた。**材料価格**は**DI▲46.3**(前期**▲60.0**)と上昇幅が縮小した。**資金繰り**については、**DI▲12.2**(前期**▲20.0**)と**7.8**ポイント改善した。**借入れ**をした企業は**46.2%**(前期**41.0%**)、**設備投資の実施**をした企業は**34.1%**(前期**43.5%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**▲4.9**(前年同期**▲17.1**)、**収益**のDIは**▲19.5**(前年同期**▲22.0**)とそれぞれ**12.2**ポイント、**2.5**ポイント改善した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、**DI▲9.8**(今期**12.2**)と**22.0**ポイント下降、悪化に転じる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**は**DI▲2.4**(今期**12.2**)、**受注残**は**DI▲12.2**(今期**19.5**)、**収益**は**DI▲12.5**(今期**2.4**)と、それぞれ増加から減少に転じる見通しである。**請負価格**は**DI▲7.3**(今期**7.3**)と、今期は上昇へと転じたが来期は下降に戻る見通しである。**材料価格**は**DI▲36.6**(今期**▲46.3**)と上昇幅が縮小する見通しである。**資金繰り**は**DI▲19.5**(今期**▲12.2**)と悪化する見通しである。**借入れ**を予定している企業は**45.0%**(今期実施**46.2%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**36.4%**(今期実施**34.1%**)となっている。

※「売上高=完成工事高」、「施工高=出来高」、「請負価格=受注額」

◆DI指数推移

	2018年				2019年	予想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	2.4	▲14.3	▲2.5	0.0	12.2	▲9.8
売上額	▲22.0	▲19.0	▲19.0	17.5	12.2	▲2.4
受注残	▲22.0	▲14.3	▲9.5	5.0	19.5	▲12.2
収益	▲24.4	▲23.8	▲16.7	▲15.0	2.4	▲12.5
販売価格	▲9.8	▲11.9	▲2.4	▲2.5	7.3	▲7.3
原材料価格	▲27.5	▲35.7	▲56.1	▲60.0	▲46.3	▲36.6
原材料在庫	0.0	4.8	4.8	2.6	0.0	0.0
資金繰り	▲17.1	▲23.8	▲14.3	▲20.0	▲12.2	▲19.5

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借入実施	した	48.8	43.9	42.9	41.0	46.2	45.0
	しない	51.2	56.1	57.1	59.0	53.8	55.0
借入難易度	容易	7.5	9.7	7.3	5.1	5.0	—
	不変	65.0	53.7	65.9	64.1	67.5	—
	難	17.5	24.4	14.6	15.4	12.5	—
	該当なし	10.0	12.2	12.2	15.4	15.0	—

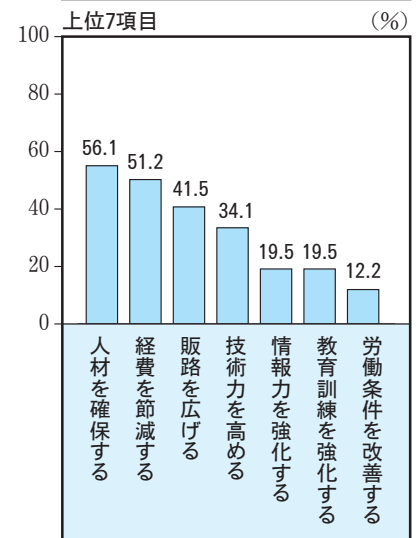
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実施	した	42.2	100.0	39.6	43.5	34.1	36.4
	しない	57.8	0.0	60.4	56.5	65.9	63.6
状況	過剰	2.5	2.4	4.9	2.5	2.4	4.9
	適正	85.0	85.4	90.2	87.5	83.0	85.3
	不足	12.5	12.2	4.9	10.0	14.6	9.8
DI	▲10.0	▲9.8	0.0	▲7.5	▲12.2	▲4.9	

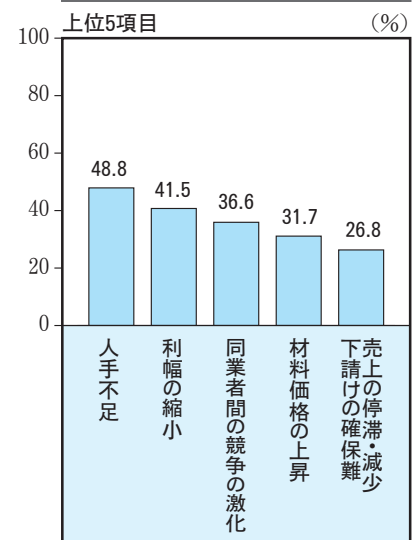
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残業時間	増加	12.2	4.8	7.1	17.5	12.5	10.0
	不変	78.0	69.0	81.0	75.0	70.0	80.0
	減少	9.8	26.2	11.9	7.5	17.5	10.0
人手	過剰	4.9	4.8	0.0	0.0	0.0	4.9
	適正	53.6	66.6	52.4	45.0	39.0	41.4
	不足	41.5	28.6	47.6	55.0	61.0	53.7

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



卸 売 業 (調査先企業10社 うち回答企業9社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**22.2%**(前期**40.0%**)、悪かったとする企業は**22.2%**(前期**20.0%**)で、DIは**0.0**(前期**20.0**)と**20.0**ポイント下降で好調感が後退した。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**と**収益**のDIは**▲22.2**(前期**10.0**)と増加から減少に転じた。**価格面**では、**販売価格**のDIは**33.3**(前期**30.0**)と僅かな上昇幅拡大、**仕入価格**はDI**▲44.4**(前期**▲30.0**)と上昇幅は拡大した。**資金繰り**はDI**▲11.1**(前期**▲10.0**)とほぼ前期同様の窮屈感で推移した。**借入れ**をした企業は**50.0%**(前期**40.0%**)、**設備投資の実施**をした企業は**10.0%**(前期**36.4%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**のDIは**11.1**(前年同期**11.1**)と前年同期と同様の増加幅、**収益**のDIは**22.2**(前年同期**11.1**)と増加幅が拡大した。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**22.2**(今期**0.0**)と**22.2**ポイントの上昇で、好調感が強まる予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**44.4**(今期**▲22.2**)、**収益**のDIは**33.3**(今期**▲22.2**)と大幅な上昇でそれぞれ減少から増加に転じる見通しである。**価格面**では、**販売価格**はDI**22.2**(今期**33.3**)、**仕入価格**はDI**▲22.2**(今期**▲44.4**)とそれぞれ上昇が弱まる見通しである。**借入れ**を予定している企業は**12.5%**(今期実施**50.0%**)、**設備投資の実施**を予定している企業は**30.0%**(今期実施**10.0%**)となっている。

◆DI指数推移

	2018年				2019年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	11.1	0.0	0.0	20.0	0.0	22.2
売 上 額	▲22.2	22.2	40.0	10.0	▲22.2	44.4
収 益	▲33.3	33.3	10.0	10.0	▲22.2	33.3
販 売 価 格	11.1	22.2	20.0	30.0	33.3	22.2
仕 入 価 格	▲22.2	▲22.2	▲40.0	▲30.0	▲44.4	▲22.2
在 庫	11.1	11.1	30.0	10.0	22.2	22.2
資 金 繰 り	▲37.5	33.3	▲10.0	▲10.0	▲11.1	0.0

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	した	55.6	22.2	40.0	40.0	50.0	12.5
	しない	44.4	77.8	60.0	60.0	50.0	87.5
借 入 難 易 度	容 易	0.0	0.0	10.0	0.0	0.0	—
	不 変	77.8	88.9	60.0	80.0	100.0	—
	難	11.1	0.0	10.0	10.0	0.0	—
	該当なし	11.1	11.1	20.0	10.0	0.0	—

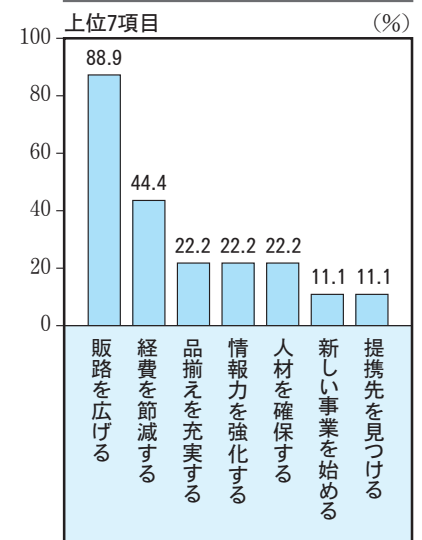
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	した	11.1	11.1	60.0	36.4	10.0	30.0
	しない	88.9	88.9	40.0	63.6	90.0	70.0
状 況	過 剰	11.1	0.0	10.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	77.8	77.8	80.0	80.0	88.9	77.8
	不 足	11.1	22.2	10.0	20.0	11.1	22.2
DI	0.0	▲22.2	0.0	▲20.0	▲11.1	▲22.2	

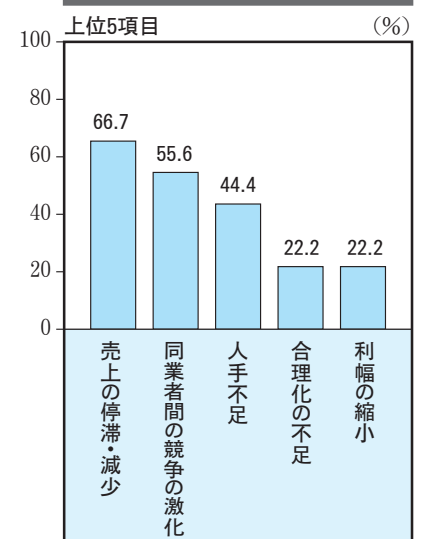
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	0.0	0.0	30.0	30.0	11.1	11.1
	不 変	88.9	100.0	60.0	60.0	55.6	77.8
	減 少	11.1	0.0	10.0	10.0	33.3	11.1
人 手	過 剰	11.1	0.0	10.0	0.0	11.1	0.0
	適 正	66.7	66.7	60.0	70.0	66.7	55.6
	不 足	22.2	33.3	30.0	30.0	22.2	44.4

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



小 売 業 (調査先企業40社 うち回答企業33社)

◇**今期の業況**：今期の業況は、良かったとする企業は**18.2%**（前期**19.4%**）、悪かったとする企業は**51.5%**（前期**48.4%**）で、DI**▲33.3**（前期**▲29.0**）と**4.3**ポイント下げ低迷した。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲36.4**（前期**12.9**）、収益のDIは**▲36.4**（前期**3.2**）とそれぞれ**49.3**ポイント、**39.6**ポイントと大幅な下降で水面下に落ち込んだ。販売価格のDIは**0.0**（前期**16.1**）と上昇傾向が弱まり、仕入価格のDIは**▲27.3**（前期**▲32.3**）と上昇傾向をやや弱めている。資金繰りのDIは**▲24.2**（前期**▲10.0**）と**14.2**ポイント下降で厳しさが増した。借入れをした企業は**30.3%**（前期**19.4%**）、設備投資の実施をした企業は**20.6%**（前期**18.8%**）となっている。

前年同期比で見ると、売上額のDIは**▲45.5**（前年同期**▲19.4**）、収益のDIは**▲45.5**（前年同期**▲27.8**）とそれぞれ**26.1**ポイント、**17.7**ポイント減少幅が拡大した。

◇**来期の見通し**：来期の見通しについては、DI**▲36.4**（今期**▲33.3**）と**3.1**ポイント下降で低迷が続く予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**▲42.4**（今期**▲36.4**）、収益のDIは**▲43.8**（今期**▲36.4**）と減少を強める見通しである。販売価格のDIは**12.1**（今期**0.0**）、仕入価格のDIは**▲37.5**（今期**▲27.3**）と販売価格・仕入価格とも上昇が強まる見通しである。借入れを予定している企業は**12.1%**（今期実施**30.3%**）、設備投資の実施を予定している企業は今期同様の**20.6%**となっている。

◆DI指数推移

	2018年				2019年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲11.1	▲42.4	▲36.4	▲29.0	▲33.3	▲36.4
売 上 額	8.3	▲45.5	▲23.5	12.9	▲36.4	▲42.4
収 益	▲11.1	▲54.5	▲26.5	3.2	▲36.4	▲43.8
販 売 価 格	16.7	24.2	17.6	16.1	0.0	12.1
仕 入 価 格	▲34.3	▲33.3	▲32.4	▲32.3	▲27.3	▲37.5
在 庫	22.2	15.2	2.9	12.9	6.1	6.1
資 金 繰 り	▲28.6	▲18.2	▲23.5	▲10.0	▲24.2	▲21.2

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	した	25.7	18.2	20.6	19.4	30.3	12.1
	しない	74.3	81.8	79.4	80.6	69.7	87.9
借 入 難 易 度	容 易	8.8	15.6	17.6	6.5	15.2	—
	不 変	52.9	50.0	41.2	45.2	45.4	—
	難	23.5	12.5	14.7	22.6	12.1	—
	該当なし	14.8	21.9	26.5	25.7	27.3	—

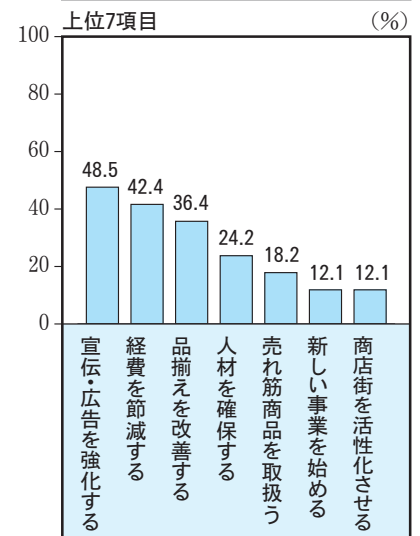
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実 施	した	10.8	15.2	13.9	18.8	20.6	20.6
	しない	89.2	84.8	86.1	81.2	79.4	79.4
状 況	過 剰	11.4	6.3	9.1	6.7	6.1	6.1
	適 正	62.9	87.4	84.8	66.6	78.7	81.8
	不 足	25.7	6.3	6.1	26.7	15.2	12.1
DI	▲14.3	0.0	3.0	▲20.0	▲9.1	▲6.0	

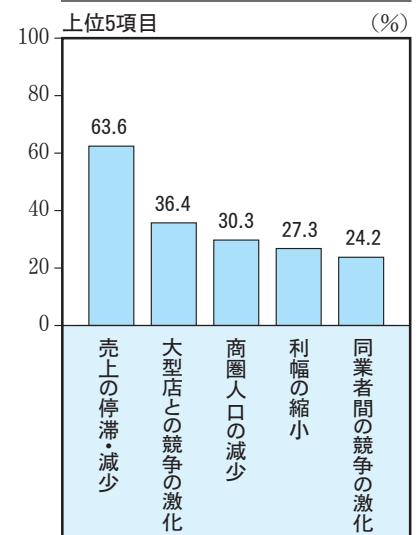
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残 業 時 間	増 加	2.9	0.0	8.8	6.5	9.1	3.0
	不 変	91.2	97.0	85.3	90.3	90.9	81.8
	減 少	5.9	3.0	5.9	3.2	0.0	15.2
人 手	過 剰	2.9	3.1	5.9	6.5	0.0	3.0
	適 正	71.4	84.4	73.5	70.9	78.8	84.9
	不 足	25.7	12.5	20.6	22.6	21.2	12.1

重点経営施策 (複数回答)



経営上の問題点 (複数回答)



サービス業 (調査先企業27社 うち回答企業25社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**4.0%**(前期**11.5%**)、悪かったとする企業は**60.0%**(前期**30.7%**)で、DIは**▲56.0**(前期**▲19.2**)と**36.8**ポイントの大幅下降で深刻さが増している。

各指標別を前期比で見ると、売上額のDIは**▲40.0**(前期**▲3.8**)、収益のDIは**▲40.0**(前期**▲11.5**)とそれぞれ**36.2**ポイント、**28.5**ポイント下降で減少幅が拡大した。仕入価格のDIは**▲20.0**(前期**▲30.8**)と上昇幅が縮小した。料金価格のDIは**▲4.0**(前期**▲3.8**)と小幅な下降で推移した。資金繰りのDIは**▲36.0**(前期**▲15.4**)と厳しさが増した。借入れをした企業は**12.0%**(前期**11.5%**)、設備投資の実施をした企業は**23.1%**(前期**32.3%**)となっている。

前年同期比で見ると、売上額はDI**▲12.0**(前年同期**0.0**)、収益はDI**▲20.0**(前年同期**▲16.7**)とそれぞれ**12.0**ポイント、**3.3**ポイント下降で低迷している。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**▲20.0**(今期**▲56.0**)と**36.0**ポイント上昇で業況は改善を予想している。

各指標別を今期と比べて見ると、売上額のDIは**8.0**(今期**▲40.0**)、収益のDIは**4.0**(今期**▲40.0**)とそれぞれ増加に転じる見通しである。仕入価格のDIは**▲36.0**(今期**▲20.0**)と上昇が強まる見通しである。料金価格のDIは**12.0**(今期**▲4.0**)と上昇に転じ好転する見通しである。資金繰りのDIは**▲8.0**(今期**▲36.0**)と厳しさが和らぐ見通しである。借入れを予定している企業は**20.0%**(今期実施**12.0%**)、設備投資の実施を予定している企業は**22.2%**(今期実施**23.1%**)となっている。

◆DI指数推移

	2018年				2019年	予想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業況	▲8.3	▲15.4	▲13.0	▲19.2	▲56.0	▲20.0
売上額	▲20.8	23.1	13.0	▲3.8	▲40.0	8.0
収益	▲29.2	0.0	▲8.7	▲11.5	▲40.0	4.0
料金価格	▲4.2	15.4	8.7	▲3.8	▲4.0	12.0
材料価格	▲33.3	▲38.5	▲34.8	▲30.8	▲20.0	▲36.0
資金繰り	▲25.0	▲19.2	▲17.4	▲15.4	▲36.0	▲8.0

◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借入実施	した	17.4	20.0	17.4	11.5	12.0	20.0
	しない	82.6	80.0	82.6	88.5	88.0	80.0
借入難易度	容易	4.3	12.0	14.3	7.7	4.3	—
	不変	65.2	64.0	57.1	65.4	82.7	—
	難	17.4	12.0	19.0	11.5	4.3	—
	該当なし	13.1	12.0	9.6	15.4	8.7	—

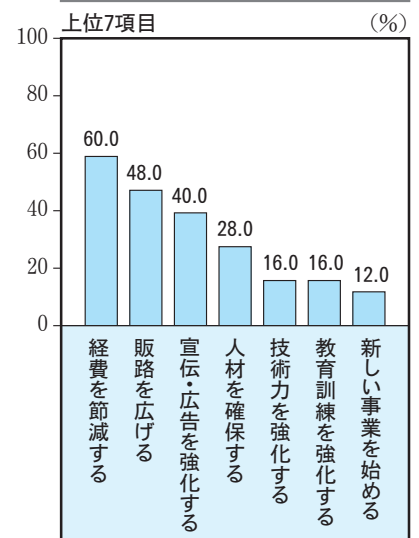
◆設備投資の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
実施	した	24.0	26.7	41.4	32.3	23.1	22.2
	しない	76.0	73.3	58.6	67.7	76.9	77.8
状況	過剰	0.0	12.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適正	87.5	72.0	63.6	84.0	79.2	75.0
	不足	12.5	16.0	36.4	16.0	20.8	25.0
DI	▲12.5	▲4.0	▲36.4	▲16.0	▲20.8	▲25.0	

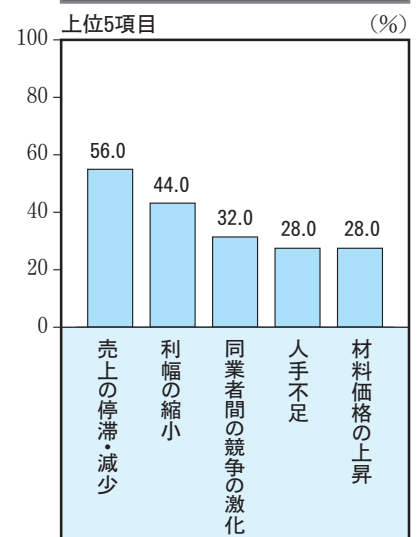
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
残業時間	増加	13.6	29.2	25.0	12.5	12.0	24.0
	不変	77.3	62.5	65.0	79.2	68.0	68.0
	減少	9.1	8.3	10.0	8.3	20.0	8.0
人手	過剰	8.3	12.0	0.0	0.0	8.0	4.0
	適正	58.4	68.0	72.7	69.2	68.0	64.0
	不足	33.3	20.0	27.3	30.8	24.0	32.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



不動産業 (調査先企業6社 うち回答企業6社)

◇**今期の業況**:今期の業況は、良かったとする企業は**0.0%**(前期**16.7%**)、悪かったとする企業は**16.7%**(前期**0.0%**)で、DIは**▲16.7**(前期**16.7**)と悪化に転じた。

各指標別を前期比で見ると、**売上額**と**収益**のDIは**16.7**(前期**16.7**)と前期同様の増加幅で推移した。**販売価格**のDIは**▲16.7**(前期**16.7**)と下降へ転じて厳しさを強めたが、**仕入価格**のDIは**0.0**(前期**0.0**)と前期同様に一服状態を維持している。**借入れ**をした企業は**0.0%**(前期**16.7%**)となっている。

前年同期比で見ると、**売上額**と**収益**のDIは**33.3**(前年同期**0.0**)と強含みになっている。

◇**来期の見通し**:来期の見通しについては、DI**0.0**(今期**▲16.7**)と持ち直す予想をしている。

各指標別を今期と比べて見ると、**売上額**のDIは**▲50.0**(今期**16.7**)、**収益**のDIは**▲33.3**(今期**16.7**)とそれぞれ大幅な下降で水面下に落ち込む見通しである。**販売価格**のDIは**▲20.0**(今期**▲16.7**)とやや下降を強める見通しである。**仕入価格**のDIは**0.0**(今期**0.0**)と今期同様の見通しである。**借入れ**を予定している企業は**16.7%**(今期実施**0.0%**)となっている。

◆DI指数推移

	2018年				2019年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
業 況	▲16.7	▲16.7	33.3	16.7	▲16.7	0.0
売 上 額	▲16.7	▲16.7	▲16.7	16.7	16.7	▲50.0
収 益	▲16.7	▲16.7	▲16.7	16.7	16.7	▲33.3
販 売 価 格	▲33.3	0.0	0.0	16.7	▲16.7	▲20.0
仕 入 価 格	33.3	16.7	16.7	0.0	0.0	0.0
在 庫	0.0	0.0	0.0	0.0	▲33.3	▲33.3
資 金 繰 り	16.7	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0

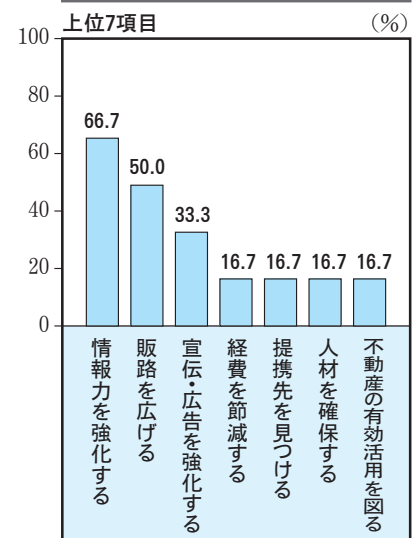
◆借入金の動き・難易度(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想	
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	
借 入 実 施	し た	16.7	16.7	16.7	16.7	0.0	16.7
	し ない	83.3	83.3	83.3	83.3	100.0	83.3
借 入 難 易 度	容 易	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	不 変	60.0	83.3	100.0	66.7	100.0	—
	難	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	—
	該 当 なし	20.0	16.7	0.0	33.3	0.0	—

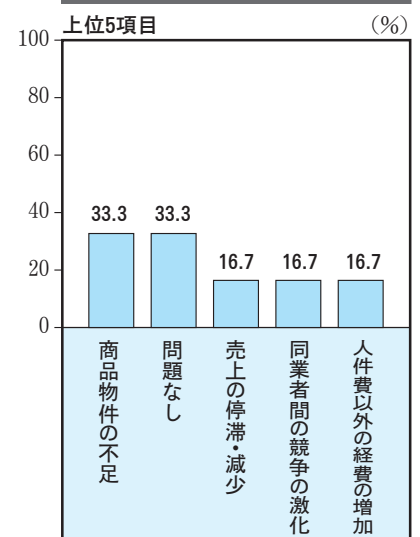
◆雇用面の動き(有効回答に占める割合) (%)

	2018年				2019年	予 想
	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月
残 業 間	増 加	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	不 変	80.0	100.0	100.0	100.0	100.0
	減 少	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0
人 手	過 剰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	適 正	80.0	83.3	100.0	83.3	100.0
	不 足	20.0	16.7	0.0	16.7	0.0

重点経営施策(複数回答)



経営上の問題点(複数回答)



特別調査 中小企業におけるインターネット利用とキャッシュレスへの対応について

問 1 貴社では、事業上の情報収集・情報発信等において、パソコンやスマートフォン等でインターネットを利用していますか。また、同様に事業上で電子メールを利用していますか。

【インターネットの利用】

総合では、9割近い企業がインターネットを利用しており、その内、6割強の企業でホームページの開設をしている。

ホームページの開設状況を業種別で見ると、製造業が69.1%と一番高く、次いで建設業68.3%、サービス業68.0%、不動産業66.6%となっており、以上の4業種では7割近い企業が開設をしている。一方、小売業は36.4%、卸売業は44.5%と前述の業種より低い開設状況となっている。

【電子メールの利用】

総合では8割を超える企業が電子メールを利用している。 (%)

【インターネットの利用】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 利用しており、自社ホームページも開設	61.5	69.1	68.3	44.5	36.4	68.0	66.6
2. 利用しているが、自社ホームページは未開設	26.9	22.1	24.4	33.3	45.4	20.0	16.7
3. 利用していないが、今後利用したい	5.5	2.9	2.4	22.2	6.1	8.0	16.7
4. 利用することは考えていない	6.1	5.9	4.9	0.0	12.1	4.0	0.0
【電子メールの利用】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
5. 利用している	80.9	85.3	89.8	87.5	75.0	60.0	83.3
6. 利用していないが、今後利用したい	6.7	2.9	5.1	12.5	12.5	12.0	0.0
7. 利用することは考えていない	12.4	11.8	5.1	0.0	12.5	28.0	16.7

問 2 貴社では、インターネットバンキングを利用していますか。利用している方、利用していない方それぞれ主な理由をお答えください。

総合では、インターネットバンキングを利用している企業は73.6%で、主な理由は「社内全体のIT化・事務負担軽減」が24.2%と一番高く、次いで「金融機関の店舗に行く必要がない」18.7%、「残高管理が容易である」18.1%、「夜間や休日でも利用できる」9.9%の順になっている。一方、インターネットバンキングを利用していない企業は26.4%で、主な理由は「利用する機会がない」が9.9%と一番高く、次いで「金融機関職員が訪問するから不要」9.3%、「セキュリティに不安がある」5.0%の順になっている。 (%)

【利用している】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
利用している割合	73.6	82.9	80.5	66.7	61.3	60.0	50.0
1. 夜間や休日でも利用できる	9.9	14.3	2.4	0.0	16.1	4.0	16.7
2. 社内全体のIT化・事務負担軽減	24.2	27.2	24.4	11.1	22.7	20.0	33.3
3. 残高管理が容易である	18.1	25.7	24.4	22.2	3.2	8.0	0.0
4. 金融機関職員から勧められた	2.7	0.0	2.4	22.2	3.2	4.0	0.0
5. 金融機関の店舗に行く必要がない	18.7	15.7	26.9	11.1	16.1	24.0	0.0
【利用していない】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
利用していない割合	26.4	17.1	19.5	33.3	38.7	40.0	50.0
6. 金融機関職員が訪問するから不要	9.3	7.1	4.9	11.1	12.9	16.0	16.7
7. パスワード管理等操作が面倒	1.1	1.4	2.4	0.0	0.0	0.0	0.0
8. セキュリティに不安がある	5.0	2.9	4.9	11.1	9.7	4.0	0.0
9. 利用する機会がない	9.9	5.7	7.3	11.1	16.1	12.0	33.3
10. インターネット利用環境がない	1.1	0.0	0.0	0.0	0.0	8.0	0.0

問 3 2019年10月予定の消費税率引上げにあたって、政府はキャッシュレス決済をすればポイント還元することを検討しています。こうしたキャッシュレス決済を推進する政府の姿勢に対し、貴社ではどのような対応を考えていますか。

総合では、キャッシュレス決済の対応では「既に導入している」14.9%、「導入予定である」2.2%と、予定を含めて17.1%の企業で導入の対応を行っている。また、導入の検討では「現在、導入を検討している」3.9%、「今後、導入を検討したい」18.2%と、今後検討したいを含めて22.1%の企業で導入の検討をしている。一方で「導入する必要がない」23.8%、「わからない」23.2%、「そもそも関心がない・関係がない」13.8%と、約6割の企業で必要性がない・わからない・関心がないと回答している。

(%)

	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. 既に導入している	14.9	12.8	2.5	0.0	37.5	16.0	16.7
2. 導入予定である	2.2	1.4	0.0	0.0	3.1	8.0	0.0
3. 現在、導入を検討している	3.9	2.9	0.0	0.0	9.4	8.0	0.0
4. 今後、導入を検討したい	18.2	11.4	12.8	22.2	28.1	32.0	16.7
5. 導入する必要がない	23.8	18.6	43.6	66.7	12.5	8.0	16.7
6. そもそも関心がない・関係がない	13.8	24.3	10.3	0.0	0.0	12.0	16.6
7. わからない	23.2	28.6	30.8	11.1	9.4	16.0	33.3

問4 貴社では、取引先や顧客との決済にあたって、現在どのようなキャッシュレス支払手段を活用していますか。

総合では、現在のキャッシュレス支払手段の回答で多かったのは、「口座振替(自動引落)サービス」38.6%、「クレジットカード」36.4%となっている。次いで「電子記録債権(でんさい等)」11.4%の順となっている。なお、プリペイドカード、スマートフォンによるQRコード決済、電子マネー、デジタル通貨、デビットカードはまだまだ低い活用状況である。一方で、「活用していない・関係ない」という回答も多く35.9%となっている。

クレジットカードの活用を業種別でみると、小売業78.8%、サービス業52.0%が非常に高い活用となっている。(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. クレジットカード	36.4	24.3	19.5	22.2	78.8	52.0	16.7
2. デビットカード	1.6	1.4	0.0	0.0	3.0	4.0	0.0
3. スマートフォンによるQRコード決済	2.7	0.0	0.0	0.0	12.1	4.0	0.0
4. スマートフォンによるバーコード収納	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
5. 電子マネー(交通系・流通系)	2.7	1.4	4.9	0.0	6.1	0.0	0.0
6. デジタル通貨(地域電子通貨・仮想通貨)	2.2	2.9	0.0	0.0	3.0	4.0	0.0
7. プリペイドカード	3.3	0.0	2.4	0.0	9.1	4.0	16.7
8. 口座振替(自動引落)サービス	38.6	48.6	43.9	33.3	24.2	16.0	66.7
9. 電子記録債権(でんさい等)	11.4	21.4	9.8	22.2	0.0	0.0	0.0
10. 活用していない・関係ない	35.9	40.0	43.9	44.4	15.2	40.0	16.7

問5 貴社では、取引先や顧客との決済にあたって、今後ともさらに活用していきたい、もしくは今後活用したいと考えているキャッシュレス支払手段はありますか。

総合では、「クレジットカード」と「口座振替(自動引落)サービス」が24.5%と一番高く、次いで「電子記録債権(でんさい等)」20.7%、「スマートフォンによるQRコード決済」16.3%、「電子マネー(交通系・流通系)」6.0%、「デビットカード」4.3%の順になっている。

業種別で見て、小売業の「スマートフォンによるQRコード決済」が51.5%と非常に高い回答から、近年の急速なキャッシュレス化の中、お客様への新サービス提供でスマートフォンによるQRコード決済が注目されているのが分かる。(%)

【複数回答】	総合	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	不動産業
1. クレジットカード	24.5	11.4	14.6	22.2	45.5	52.0	16.7
2. デビットカード	4.3	2.9	4.9	0.0	9.1	4.0	0.0
3. スマートフォンによるQRコード決済	16.3	7.1	0.0	11.1	51.5	28.0	0.0
4. スマートフォンによるバーコード収納	3.3	1.4	0.0	0.0	9.1	8.0	0.0
5. 電子マネー(交通系・流通系)	6.0	2.9	4.9	0.0	12.1	12.0	0.0
6. デジタル通貨(地域電子通貨・仮想通貨)	0.5	1.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
7. プリペイドカード	2.2	1.4	2.4	0.0	3.0	4.0	0.0
8. 口座振替(自動引落)サービス	24.5	27.1	29.3	33.3	15.2	12.0	50.0
9. 電子記録債権(でんさい等)	20.7	35.7	24.4	22.2	0.0	4.0	0.0
10. まったく関心がない・関係がない	34.2	37.1	43.9	55.6	15.2	24.0	50.0

商品のご案内

お使いみち ご自由(事業性資金もOK!)

●満20歳以上、完済時満80歳以下の個人または個人事業主の方

お申込みいただける方

●当金庫の営業地域内に居住または勤務されている方

●安定継続した収入のある方(パート、アルバイト、年金収入の方もOK)

●世帯収入のある専業主婦(夫)の方

ご融資金額 10万円以上500万円以下(1万円単位)

ご融資利率 ●保証会社の審査により

年5.8%、年9.0%、年13.5%

(各金利とも保証料含む(固定金利)のいずれかとさせていただきます。)

ご融資期間 6ヶ月以上10年以内

但し、ご融資金額が300万円以下の方は7年以内

ご返済方法 ●元利均等定額返済(ご返済日は毎月6日・16日のいずれかの日となります)

●お申込金額の50%以内についてボーナス併用返済もごできます。

担保・保証人 不要 [※クレジットローンの保証付]

●詳しくは当金庫借付窓口までお問い合わせください。

●店舗に商品概要が明瞭をご用意しております。

●審査結果によってはお申込金額の減額またはご希望に添えない場合があります。